

浄化の場 —旧佐波浄水場再生計画—

広島県福山市で初めて建設された浄水場である佐波浄水場の跡地には配水池という建物が残っている。
その内部は煉瓦造のヴォールト天井が連続する美しい空間が広がっているが、
現状はフェンスに囲まれ有効活用されていない状況にある。
そこで、配水池を温浴施設へとコンバージョンし、使いながら受け継がれていく浄化の場として再生する。



■敷地：佐波城山公園

計画する敷地は広島県福山市にある佐波城山公園という場所で、福山市中心部をのぞむ丘陵地帯に位置する。

この場所は福山市で初めて敷設された佐波浄水場の跡地を公園として整備した場所で、「配水池」という浄化された水を貯水していた建物など、いくつかの遺構が残っている。しかし、これらの遺構は現在、フェンスに囲まれ放置状態にあり、有効活用されていない状況にある。

また本来は福山市中心部や芦田川を見渡せる立地にありながら、木々に敷地全体が覆われ周辺に対して閉ざされた場所となっており、公園内には遊具等が一切ないため、人が訪れない閑散とした場所となっている。



■提案1：配水池のコンバージョン



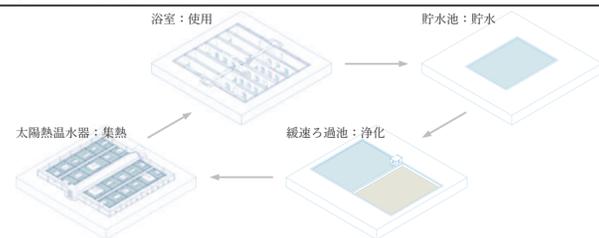
配水池を水と関連があり、なおかつ周辺の団地住民が日常的に利用できる温浴施設としてコンバージョンする。また、敷地の付近には福山市の中でも歴史ある神社である草戸稲荷神社があり、参拝者の視の場としての利用も見込まれる。

■提案3：公園の再整備



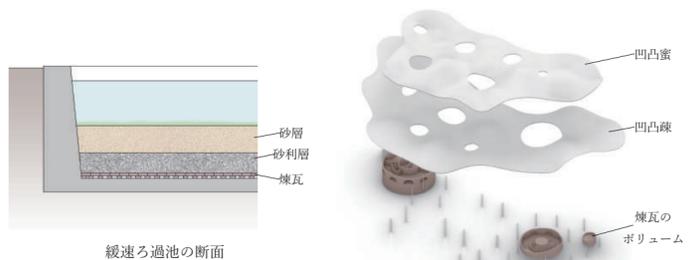
現在の敷地は周辺を囲む木々によって景観が遮られている。そこで、再生した緩速ろ過池を覆うように層を重ねることによって、緩速ろ過の様子や周辺の街並み、芦田川を眺めることのできる憩いの場として再整備する。

■提案2：緩速ろ過の再生



緩速ろ過池とはかつての主流の浄水方法であり、微生物の分解作用を用いた浄化方法で薬品をほとんど用いず、エネルギーの使用量も少ない環境に優しい浄化方法である。しかし、原水水質の悪化やろ過速度向上のために多くの浄水場が別の浄化方法に乗り換えてしまったため、緩速ろ過は衰退の一途を辿っている。そこで現在敷地内に解体されずにそのまま埋め立てられている緩速ろ過池を再生し、温浴施設で使用された水を緩速ろ過によって浄化し再利用できるシステムを構築した。

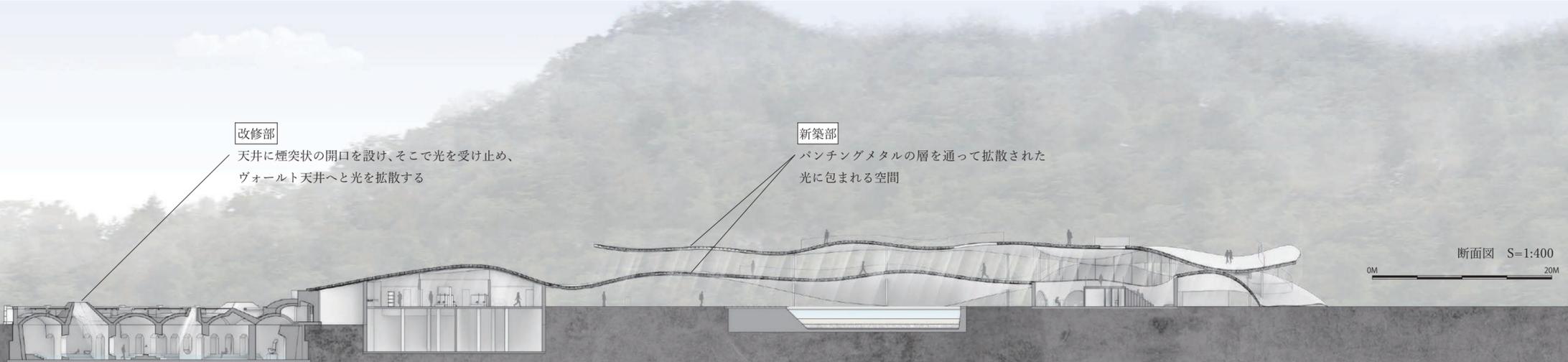
■緩速ろ過の空間化



新築部の形態は緩速ろ過池をモチーフとした。砂層・砂利層を凹凸の密度の異なる層としてとらえ、凹凸が密な層、疎の層、煉瓦のボリュームの3層構造となっている。煉瓦のボリュームが受付・カフェなどの機能的な施設となっている



■光のろ過

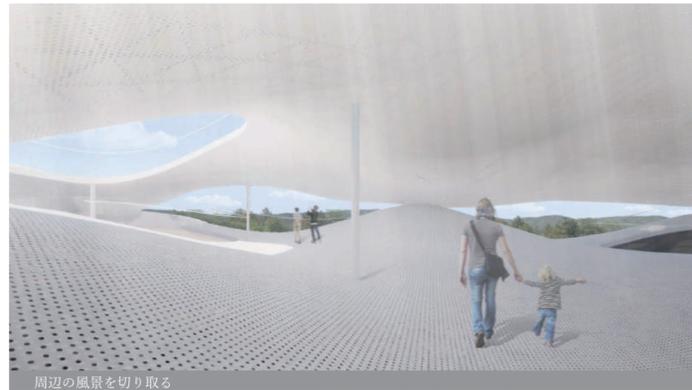




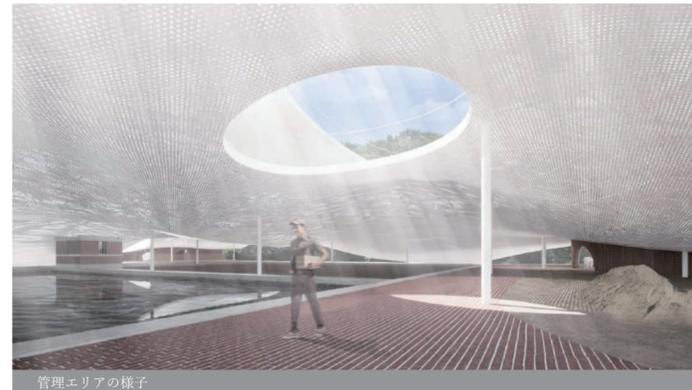
緩速ろ過の様子を切り取る



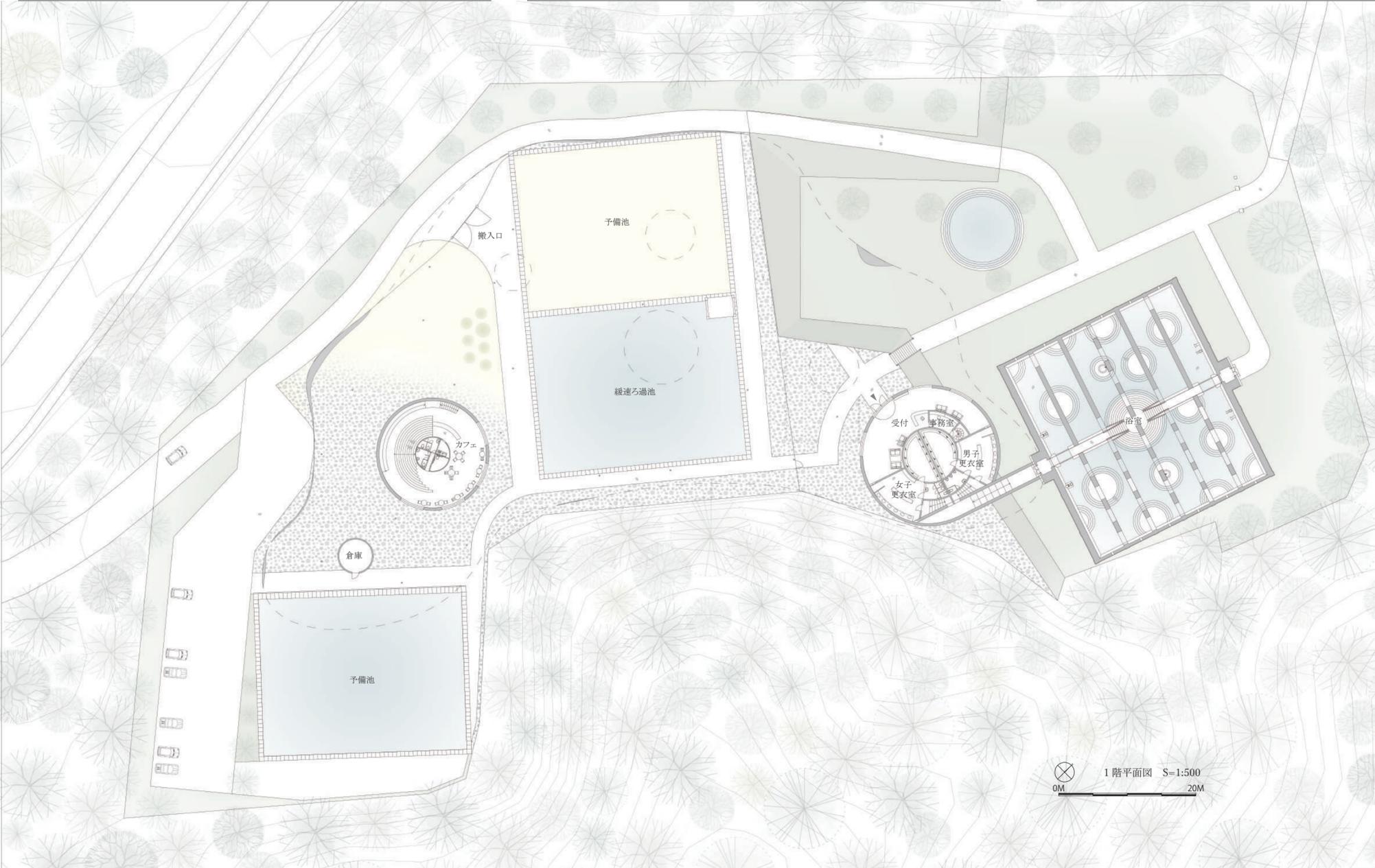
天井に浮かび上がる構造体



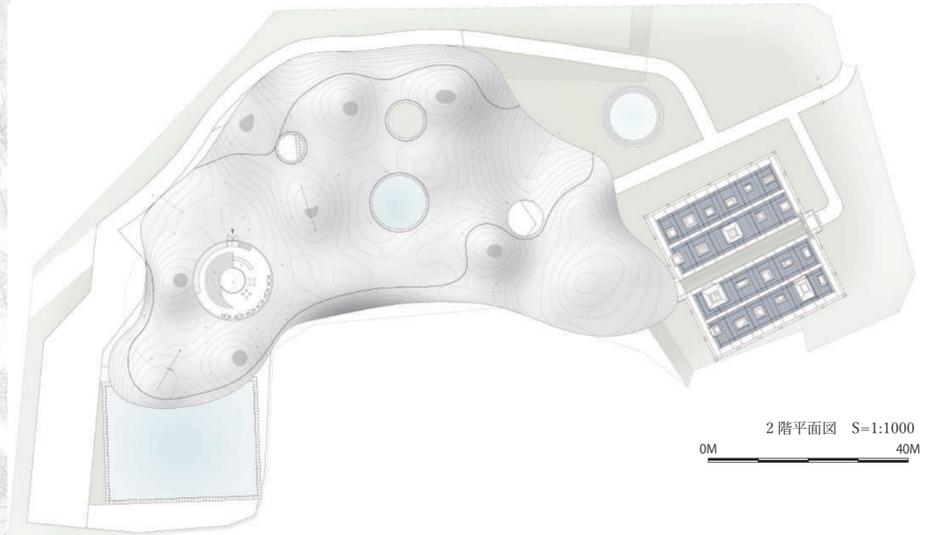
周辺の風景を切り取る



管理エリアの様子



1階平面図 S=1:500



2階平面図 S=1:1000



3階平面図 S=1:1000

地階平面図 S=1:1000



カフェ内部から緩速ろ過池を眺める



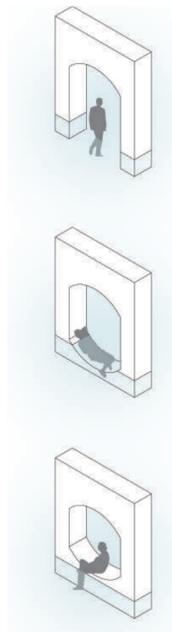
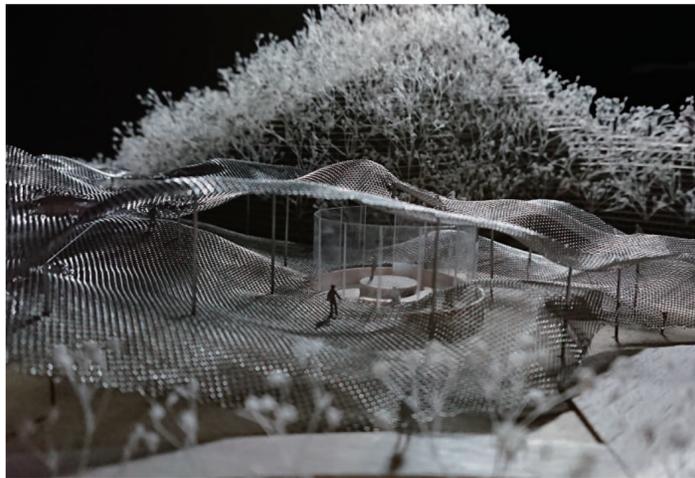
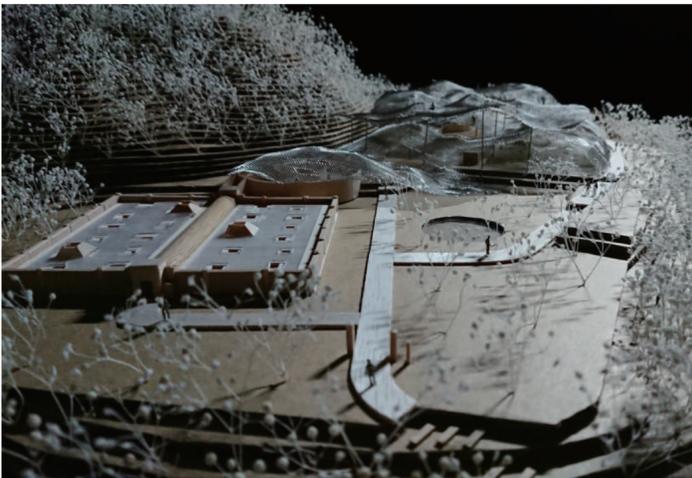
光の降り注ぐシャワー室



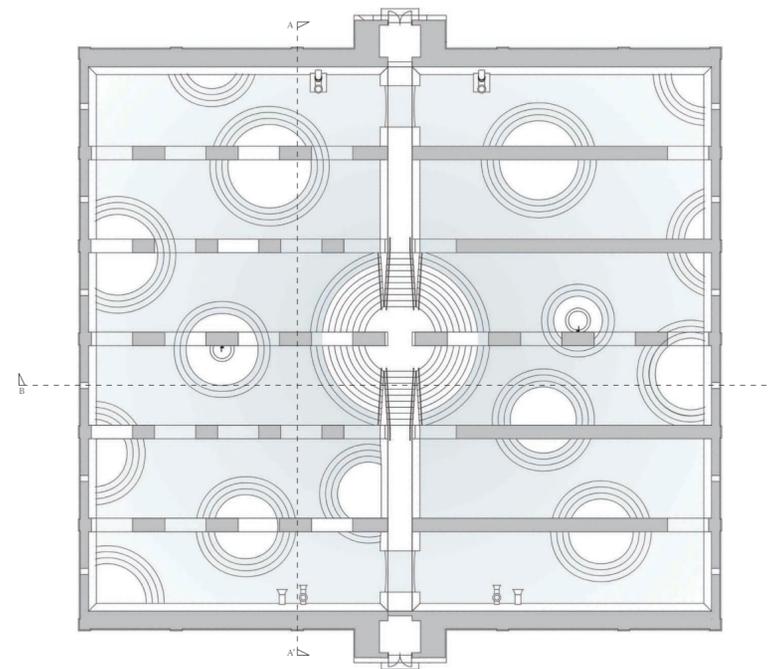
既存の桜並木



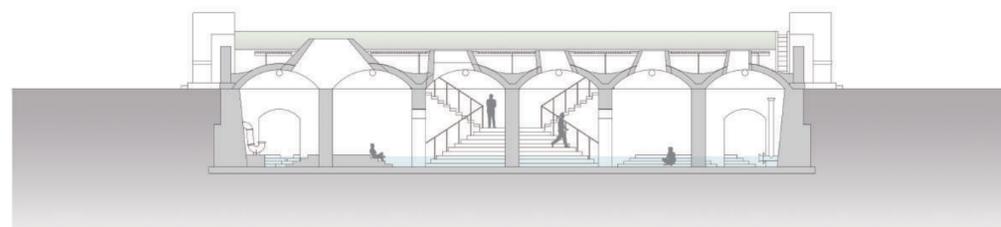
かつての門を利用したエントランス



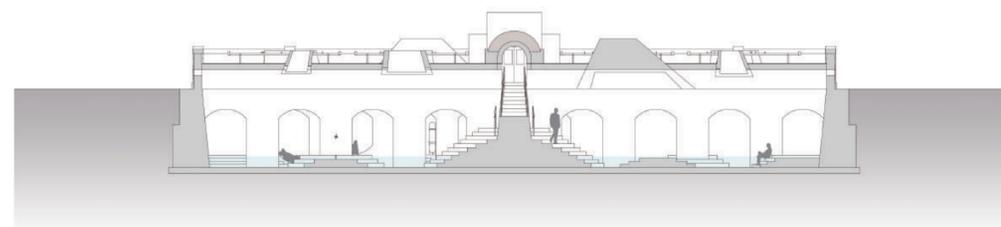
開口パターン



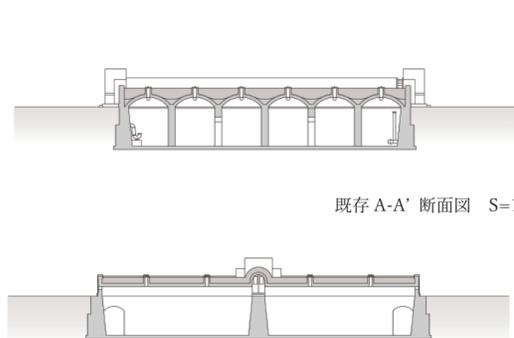
配水池平面図 S=1:250
0M 20M



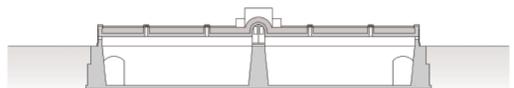
A-A' 断面図 S=1:250



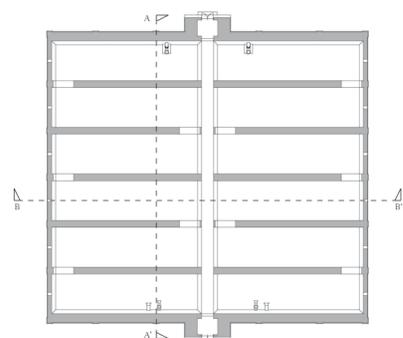
B-B' 断面図 S=1:250



既存 A-A' 断面図 S=1:500



既存 B-B' 断面図 S=1:500



既存平面図 S=1:500
0M 20M

